

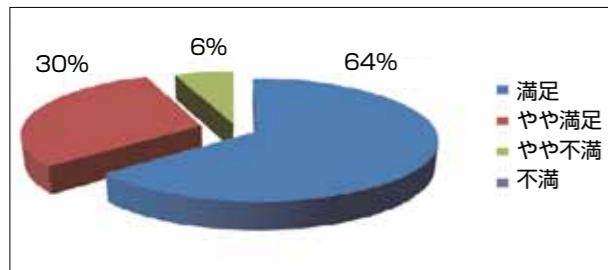


# 満足度調査結果のご報告

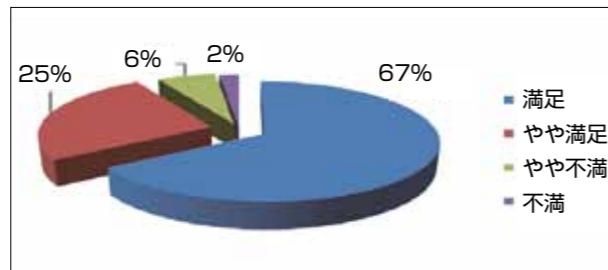


平成26年6月に患者さま満足度調査を実施しました。ご協力いただきましてありがとうございました。結果は真摯に受け止め、よりよい病院運営のために、一層努力してまいります。

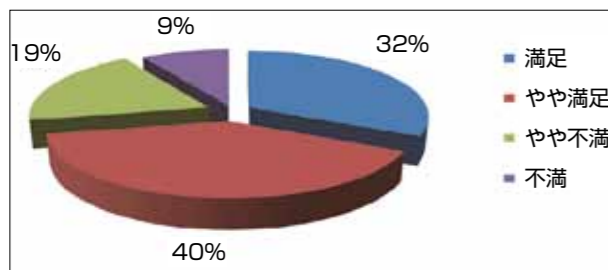
### 職員のあいさつは？



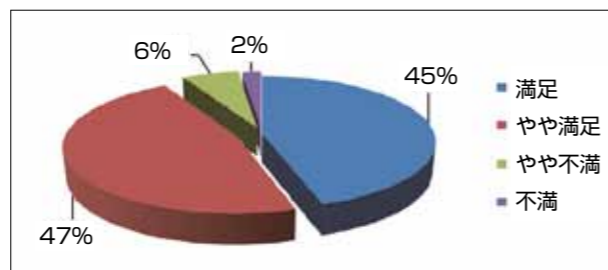
### 職員の説明は？



### 診察時の待ち時間は？



### 院内の雰囲気は？



高砂市民病院ニュース  
第21号  
平成26年9月

# きぼう



基本理念 希望のある医療



〈新任職員屋上ガーデンにて〉

## ふれあい看護体験

今年も7月23日・24日に、近隣の高校生を対象に「ふれあい看護体験」を開催しました。2日間で計45名(男子3名、女子42名)参加され、実際に血圧測定・心電図モニターの使い方・患者さまの手浴・車椅子の介助など、看護師が日々行っている業務をたくさん体験していただきました。

患者さまにケアを行い、感謝の言葉に感動し、看護師への関心がさらに強くなったようです。

今回の体験を通して1人でも多くの方に医療の道に進んでもらえれば、最高にうれしく思います。



## 病院ボランティア

高砂高校の看護医療系1年生が、課外の体験活動のために「病院ボランティア」に参加しました。外来での患者さまの案内や介助、タオルローリングなどの活動を行いました。

初めてボランティアに参加したという方が多く、最初は緊張していましたが、患者さまからの「ありがとう」の一言により笑顔で対応できるようになっていきました。

今回の体験活動で、病院は単に病気やけがを治療するだけでなく、(気持ちから元気になっていただく)ということを学んでもらえたと思います。



## 糖尿病看護認定看護師と透析看護認定看護師が誕生しました

### 糖尿病看護認定看護師 川崎 廣美 より一言

慢性疾患看護として、自らが決定したやり方で病気や生活をマネジメントできるセルフケア能力を獲得できるように支援することが必要となります。長期にわたる療養生活の中で上手いかない時もあると思いますが、自分らしく生きることができるようお手伝いしていきたいと思っておりますのでいつでも声をかけて下さい。

### 透析看護認定看護師 竹澤 一憲 より一言

腎臓病の予防や透析療法についての質問や疑問に思っていることを、患者さま・ご家族さまと共に考えていきたいと思っております。よりよい日常生活となるように患者さまに寄り添いながら、安全・安楽・安心のできる看護を提供していきます。



右(糖尿病看護認定看護師 川崎 廣美)  
左(透析看護認定看護師 竹澤 一憲)

〈編集・発行〉

高砂市民病院 広報誌編集委員会

〒676-8585 兵庫県高砂市荒井町紙町33番1号  
TEL 079-442-3981(代表) Mail tact5510@city.takasago.hyogo.jp

# 新任医師を紹介します！

いつでも声をかけてください。

4月着任



はせがわ やすひろ

**長谷川 康裕** (整形外科)

4月より神戸赤十字病院より赴任しました長谷川です。前任地では上肢、関節外科を担当しておりました。2人体制と少人数ですので何かとご迷惑をおかけしますが整形外科全般に取り組む所存ですので岡田 Dr. 共々よろしくお願い致します。

4月着任



おかだ よしき

**岡田 芳樹** (整形外科)

岡山大学から赴任しました岡田芳樹と申します。大学では、小児・股関節グループに所属していました。外傷を中心にあらゆる疾患に対応していくつもりです。今後ともよろしくお願い致します。

7月着任



よしむら すみひこ

**吉村 純彦** (緩和ケア内科)

緩和ケアは、治すことが難しい病気を患っても、その後の生活が楽にできるように、症状の緩和治療と生活環境を整えるお手伝いをさせていただきます。症状が楽になることで、闘病意欲が沸き、病気と闘う治療に戻られる方もいらっしゃいます。お気軽に併診をお待ちしています。

お気軽に併診をお待ちしています。

4月採用



きたの ひろあき

**北野 裕韻** (臨床研修医)

臨床研修医の北野裕韻です。久留米大学を卒業して今年4月から2年間当院での研修をしていきます。毎日患者さまとの時間を大切に、役立てるよう努力していきますのでよろしくお願い致します。

## 整形外科の現状報告

整形外科 部長 長谷川 康裕

当院整形外科に4月に赴任し、4か月が経過しました。

以前おられた先生方が退職され、平成25年4月から1年間は週3回の非常勤医師の外来のみで、常勤医師の不在の状況での赴任でしたので、先が見えない状況で“どうなることやら”というのが赴任前の感想でした。

赴任しての状況ですが、地域の医療状況等も含め、右も左もわからない状態での立ち上げでしたが、院内の先生方、スタッフの皆さんには暖かく迎え入れていただき、スムーズに仕事に入っていたと感じております。

当初、病院のシステムに慣れていないことに加え、外来が想像以上に多くの患者さんが受診され、特に4月はほぼ全ての患者さんが初診となるため、非常にバタバタしておりましたが、少し落ち着いて来ました。入院、手術も徐々に増加傾向で、現時点では入院患者さん25名程度、手術は月20件弱とほぼ目標に近い状態となってきました。これも高砂市民病院のname valueと以前に仕事されていた先生方が築かれた伝統によるものと感謝しております。

また、昨年度よりの非常勤医師の方も引き続き来てくれていて、私達では出来ない彼らの専門分野の手術も既に数例していただいています。

しかしながら何分常勤医師2人体制ですので、何かとご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、少しでも地域医療に貢献していく所存ですので、相方の岡田先生共々これからも宜しくお願いいたします。



< 整形外科医 3人衆 >



< 人工関節手術に挑む様子 >

## 血液浄化センターが増床になりました

4階血液浄化センターは、7月に9床から18床に増床いたしました。5階血液浄化センターは、ベッド間のスペースを広げて、療養環境を改善するため、24床から20床にしました。透析治療が必要な患者さまを、スムーズに受け入れできるよう頑張っていきます。